

## 第17回日本ポッチャ選手権大会(本大会)の報告

H27年12月26・27日の両日、兵庫県神戸市の「グリーンアリーナ神戸」(神戸総合運動公園)にて開催された「第17回日本ポッチャ選手権大会本大会」において、石川県ポッチャ協会からは、小松市の田中恵子選手(BC3の部)と穴水町の嶋谷長治選手(OP 座位の部)の2名が出場しました。全国から約70名の選手が出場し、1日目には予選リーグ、2日目に決勝トーナメント戦が行われました。以下、石川県選手2名の成績を報告します。

(成績) ・田中 恵子選手 (BC3の部) 予選敗退 ・嶋谷 長治選手 (OP 座位の部) 第1位

この結果 田中選手は、H28年7月、山口県で開催される「日本ポッチャ選手権大会(予選会)」に出場し、同年11月には石川県金沢市で開催されるポッチャの全国大会である「第18回日本ポッチャ選手権大会本大会」の出場を目指すこととなります。

なお、嶋谷選手は優勝しましたので、予選は免除され「第18回日本ポッチャ選手権大会 本大会」への出場が決定しております。

今年も全国大会もありますので、選手の皆さん共にご協力をお願いします！ 皆様、応援もよろしくお願いいたします。

中日新聞：12/28 月曜日朝刊より

石川県穴水町の嶋谷長治さん(左)が昨年末、パラリンピックの正式種目でもある「ポッチャ」の全国大会で初優勝した。脊髄損傷の事故から十年での金メダルだ。リオデジャネイロ五輪・パラリンピックに注目が集まる〇一六年。優勝したクラスはパラリンピックの対象外だが、「生きる希望」を与えてくれた障害者スポーツの普及につながればと願っている。(武藤周也)

# 広まれ 希望のポッチャ

## 穴水の男性 全国大会V

十一月二十七日、神戸市で開かれた日本ポッチャ選手権大会決勝。最後の一投まで勝負が分らない息の抜けない接戦。日本一が決まった瞬間、思わず拳を天に掲げた。全国大会出場四回目での快挙だった。嶋谷さんが出場したのは障害がやや軽い「オープン」でパラリンピックの種目にはない。

十年前の春。大工だった嶋谷さんは工事現場の二階から転落し、首から下が動かなくなった。リハビリで腕が動くまで回復したが、車いすの生活に。思うよう動けない自分を受け入れられず、人と会うのを避け、外出を嫌がった。ポッチャとの出会いはそんな生活の全てを変えた。

ポッチャ 重度脳性まひや四肢重度機能障害者のために考案された12.5×6mのコートで対戦。選手は赤と青のボールをそれぞれ6球ずつ持ち、投げたり転がしたりして、床に置いた白い目標球にどれだけ近づけるかで得点を競う。障害でボールを投げられない人も、勾配のある専用器具の角度を介助者に伝えてボールを転がし、競技に参加できる。近年は高齢者に優しいスポーツとしても注目を集めている。

### 欧州発祥の障害者競技

●●パラ五輪にも

入所した障害者福祉施設にポッチャのクラブがあった。施設職員らが勧められて始めると、やがて自分の心に小さな明かりがともった。

県大会で優勝を重ね、二年に初の全国大会に出場。翌年には銅メダルを獲得した。目標を持つことで表情がよみがえり、スポーツを通じて友人もできた。いつしか「全国大会で金メダル」という目標が生きて希望になっていった。自費での遠征に付き添うなど支え続けた妻の「二美さん(左)は「このスポーツに出合ってお父さんは変わった。障害のある若い人たちにも知ってもらいたい」と語る。

ポッチャはまだ一般的な知名度は低いが、十一月には北陸で初めての全国大会が金沢市で開催され、嶋谷さんはポッチャが広く知られることに期待を寄せる。国内大会での活躍を通して、競技を知らない多くの人が、勇気を与えたい。「金メダルはまくれかもしれんが、事故に遭ってもこの年になっても、やればできる」とある。新しい年に、新たな一歩を踏み出した。



大会後の一コマ！  
嶋谷長治です(写真:左側)  
応援ありがとうございました。  
秋の大会でもがんばります。